

教科名	対象学年	使用した資料（参考にした資料）	TYPE
英語	中学1年	授業アイデア集【中学校版】p47, 48	Ⅲ
授業内容		既習表現を活用して、英語で表現しよう。	
身に付けたい力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Can you ～？の使い方を理解し、活用する力。</li> <li>・ 相手に伝わるように、会話をする力。</li> </ul>	

教科名	対象学年	学校名	課題の見られた問題	TYPE
英語	2年	本庄市立本庄東中学校	25年度 県 9	Ⅲ
授業の内容	既習表現を活用して、状況や場面に応じた英語で表現しよう。【帯活動】			
身に付けたい力	状況や場面に応じて、適切な英文を組み立て表現する力。			

**【事例1】 絵の描写 「絵で示されたものが何か分かるように伝えよう。(speaking)」**

＜活動の目的＞  
目標文の文構造や文法知識の理解が終わらず、伝えたい内容を意識して目標文を使う（活用する）ことで定着を図る。

＜実際の活動場面＞（例）後置修飾（不定詞の形容詞的用法）

Um... ???

**【授業のポイント①】**  
第1ヒントを “This is something to + 動詞の原形 ” の形で話すことにより、目標文の定着を目指す。

**This is something to ... write.**  
It's long. I used it ...when~

＜手順＞

① ペアを作り、一人は黒板に背を向ける。  
② ヒントを出す人は、黒板に映し出された絵を見て相手に英語で説明する。（説明時間は20～30秒）  
③ 正解できたら、着席する。  
④ 役割を交代する。

＜工夫点＞

- ・ ゲーム形式により、楽しく英語を話せるようにする。
- ・ 時間制限や提示する絵によって、難易度を調整する。
- ・ 目標文に続けて、多様な英語表現を引き出すことで、既習表現の活用につなげる。

**【授業のポイント②】**  
☆さまざまな文法事項で活用することができ、3年間を通した帯活動になる。  
（例）教科書の登場人物あてクイズ

【入門期】単語による説明 boy, soccer, student  
【1年生】簡単な文による説明 This is a boy. He likes soccer.  
【3年生】関係代名詞を使った後置修飾など This is a boy who likes soccer.

**【事例2】 英文日記 「昨日行ったことについて英語で日記を書こう。(writing)」**

＜活動の目的＞  
継続して英文日記を書くことで、書くことに慣れるとともに、徐々にレベルアップを図り、まとまりのある英文を書く力を育成する。  
＜事前の活動＞

① 不規則動詞の変化形練習

take-took-taking

- ・ リズムボックスやメトロノームに合わせて、口頭でテンポよく練習する。
- ・ フラッシュカードを活用すると便利。

② 書く前のインプット活動

（例）What time did you get up this morning?  
（例）I got up at six thirty this morning.

「考えるようになったことを書いて、定着率アップ」  
英文日記で書く1文につながる。

＜工夫1＞ ワークシートでフレームを提示

少しずつレベルアップ  
少しずつ意識する

Ver. 1

◎はじめは曜日・日付や天気+1文など書きやすい簡単な文から始める。

Ver. 4

◎事実+感想や接続詞の活用などを設定する。

＜工夫2＞ 教科書の活用

＜工夫3＞ 家庭学習につなぐ。  
導入時は、書く前に①②を授業で行う。  
不規則動詞（1分）→対話（1分×2セット）  
→英文日記（2～3分）  
慣れてきたら、英文日記は家庭学習にする。  
→家庭学習にすることで、時間をかけて、より豊かな表現を引き出すことができる。

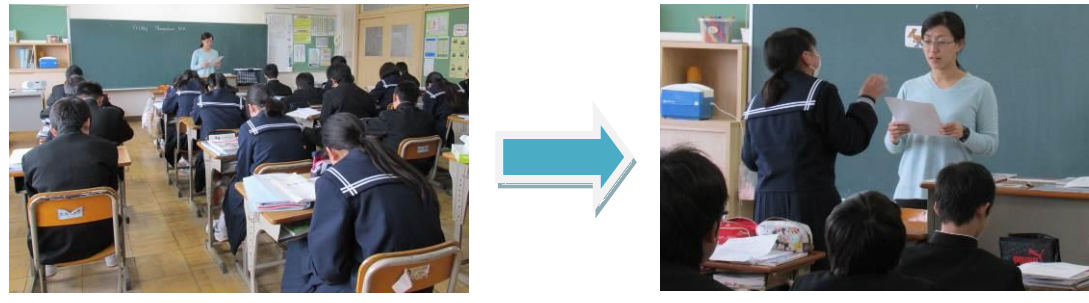
日記は毎回添削し、内容に対するコメントを書いて返却することで、正確な表現の定着につなげるだけでなく、活動への意欲付けを図る。

**【授業のポイント③】**  
文構造の定着には、理解した後にその表現を繰り返し使うことが大切。教員は飽きさせない工夫と、生徒がミスを恐れず互いに学び合う人間関係の構築にも気を配る必要がある。

**【授業のポイント①】**

○活動の中で使用する単語や表現について、発音や意味を練習し、確認する。  
○活動内容のデモンストレーションをする。（ALT がいる場合は ALT と行う）

**【授業の様子】**



**【効果】**

・ 既習の単語と未習の単語を混ぜることによって、これから何をするのかという興味を持たせることができた。

- ・デモンストレーションを行うことで、次に行く活動のねらいを明確にし、生徒の興味を引くことに繋がった。

### 【授業のポイント②】

- 英語で聞く、話すことの楽しさを体験するとともに、生徒が自ら話したいと思えるようにする。
- チャレンジ問題を用意しておき、最後に行く。
- さまざまなキャラクター、文法事項で活用することができるため、帯活動にもなる。

### 【授業の様子】



Can you ~?

You are a ~!

Yes, I can. / No, I can't.

Yes, I am. / No, I'm not.

☆掲示した動物



### 《手順》

動物を黒板に掲示し、黒板側を向いている生徒はその動物になりきる。黒板に背を向けている生徒は” Can you ~?” を使って質問をし、相手がワークシートの選択肢の中のどの動物になっているのかを当てる。役割は交代する。

### 【効果】

- ・質問する側の生徒は何とか動物を当てようと、一生懸命繰り返し質問していた。
- ・一斉に会話し始めるため、自ずと大きな声で会話ができる。また2人で協力して会話をつなげようとする姿も見られた。
- ・生徒からもっと難しい問題にしてほしいとの要求があるなど、学習意欲を高めることができた。
- ・早く正解したペアが、まだ正解していないペアを助けるなどの行動も見られた。

### 【授業のポイント③】

- 聞く、話す活動から、書く作業へとつなげ、正確に書く力も育成する。
- 活動で使った表現を活用し、英文を書く。

### 【効果】

- ・何回も会話を繰り返したことで、指示した数よりも多くの文を書いた生徒がいた。
- ・スローラーナーに対して、周りの生徒が教えるなど、助け合う場面も見られた。

